

# マテリアル探求のための透明図鑑

## Transparent illustrated book for material exploration

青井 皓  
指導教員 川崎 紀弘

サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 伝わるデザイン研究室

キーワード：透明物，表現，特徴，ガラス，水

### 1. 研究目的

私は日常的に絵の具を使って色々なものの絵をよく描いており(図1)、そのなかでも透明なものが起こす歪みや映り込み、ぼやけ方などの現象に魅力を感じ、興味を持った。



図1 普段描いている絵

世間では度々透明なプロダクトのブームがやってくる。我々が日常生活で目にする様々なものに透明素材が使われていることから、マテリアルとしてとても魅力的であるのだろうと考え、その素材研究を目的に研究を行う。

### 2. 調査内容

最初に、透明(半透明)マテリアルが使われている事例について調査を行った。その結果、ミスブランチ、iMac、バカラのクリスタルグラスといった数々の長年愛されてきた透明なプロダクトが存在することがわかった。

そのほかに、『世界の美しい透明な生き物』とい

う図鑑や『世界一美しい 透明スイーツレシピ』というレシピ本などといった、透明に着目したテーマの書籍がいくつか出版されていることがわかった。ここからも、透明なものに対する人気や需要が感じ取れる。

### 3. コンセプトおよびアイデア展開

アクリル絵の具を用いて、プラスチックやガラスなど、様々な素材でできた透明なものを描く。それらを描写しながら、その質感や映り込みの特徴を学ぶ。

透明なものが人を引きつけるのはなぜか、それはデザインを考える上でも大きな研究対象である。

提案物：透明図鑑

描いた絵を素材の種類ごとに分類、分析し、図鑑として1冊の本にまとめる。作品としてのクオリティを上げるといった目的から、図鑑の製本は業者に発注して行う予定だ。

この図鑑は先ほど提示したような書籍の読者層に近い、「透明なものが好き！」という人向けに制作する。

### 4. 試作

試作として、実際に瓶やガラスコップをはじめとした絵を何点か描いた。写真のように、鉛筆で下描きをしてアクリル絵の具で着色するというプロセスで絵を描いた。(図2)



図2 制作プロセス



図3 実際に制作した絵

実際に何枚か絵を制作してみると、普段の絵とは違い、真っ白な空間にモチーフがある状態を想定して描いており、このようにモチーフの後ろに何も無い状態では透明感を表現しきれない場合があることに気がついた。(図3)

これを踏まえ、今後は今まで描いたような身近な小物に加えて、

- ・透明な食べ物
- ・透明な生き物
- ・背景に何かある状態のもの
- ・窓ガラスなどの大きなもの

なども描き、制作そして研究の幅を広げていきたい。

## 5. 今後の課題

作品としてのクオリティを上げるためにも、また研究の密度を上げるためにも、さらに多くの絵を描く必要がある。今後はよりペースを上げて絵の制作をする。

その後、それらをスキャンしてまとめ作業及び製本作業、そして発注作業を行う予定だ。

## 6. 参考文献

1) 世界の美しい透明な生き物

<https://www.xknowledge.co.jp/book/9784767815992>

閲覧：2023年7月22日

2) 世界一美しい透明スイーツレシピ

<https://www.kadokawa.co.jp/product/322005000670/>

閲覧：2023年7月22日